

びっくり
現象

びっくり現象を
集めると
未来が見えてくる

No. 123

書画家

小林 芙蓉



● こばやし ふよう

書画家。1976年から活動を始め、アジアを中心にアメリカ、イスラエルなど世界各地で書を通じて国際親善に尽力し、ローマ法王にも書を献上。国内では伊勢神宮(いせじんぐう)や高野山金剛峯寺(こうやさんこんこうぶじ)など全国の神社仏閣で揮毫・奉納している。著書に『水のように生きる』『水鏡』など。また、京都・嵐山にて豆腐懷石料理店「松籟庵(しょうらいあん)」を経営。故船井幸雄氏とは、京都屈指の「イヤシロチ」として松籟庵を訪れたことをきっかけに親交を深め、DVDや雑誌などで対談するなど晩年まで交流は続いた。

松籟庵 〒616-8386

京都府京都市右京区嵯峨亀ノ尾町官有地内

ホームページ <https://www.shoraian.jp/>

日本建て替えへの祈り

Interviewer

船井勝仁

編集

兒玉裕子

枚岡神社とのご縁

勝仁…今日はお時間を頂きありがとうございます。また、いつもにんげんクラブでもお世話になり、ありがとうございます。

小林芙蓉(以下…芙蓉)…にんげんクラブ、一生懸命宣伝しておきましたよ(笑)。

勝仁…芙蓉先生を中心に、素晴らしい女性のネットワークができていて、今は女性の時代だと本当に感じますね。

芙蓉…女性の時代とは言っても、やっぱり中心は男性ですよ。

勝仁………………。

芙蓉…うん、と言わないわ(笑)。

勝仁…あははは、そうですね。

芙蓉…今月(取材時、4月)の28日は枚岡神社で揮毫してくださいとご連絡があったので、枚岡神社へ行つて

ら、お訪ねしたほうがいい」と言われて行きました。

※ 兒玉裕子(こだま ゆうこ) 2005年株式会社船井本社に入社後、船井幸雄の秘書となる。2008年結婚を機にフリーランスとなった現在も、にんげんクラブでのインタビューや原稿執筆の業務に携わる。

日本建て替えへの祈り

宣伝しておきましたよ（笑）。

芙蓉… 今月（取材時、4月）の28日は枚岡神社で揮毫してくださいとご連絡があったので、枚岡神社へ行ってくるんです。その足で、春日大社にも行こうと思っています。

中山恵美賀（以下…中山）…それは素晴らしいですね。

枚岡神社は、春日大社の元宮もとみやだと言われ、元春日と呼ばれていますね。私は真菰まこもを育てているのですが、

去年枚岡神社へ真菰を奉納しようとお持ちしたときに、

たまたま宮司様が出ていらつしゃって、それ真菰ですね、というお話から宮司さんと意気投合したんです。

真菰を育てるときには、真名井神社のお水と、比沼麻ひぬま

奈為神社のお水、それから春日大社のお水が必要だ

と思ったのですが、春日大社には井戸のお水がないか

ら、元宮である枚岡神社からお水を頂いてきて、それ

らのお水を合わせて田んぼにまいて真菰を育てている

んです。

芙蓉…ご苦労様ですね。

勝仁…僕も枚岡神社とはご縁があつて、ある方から

「船井さんは枚岡神社の若宮さんとしても縁があるか

勝仁…あははは、そうですね。

ら、お訪ねしたほうがいい」と言われて行きました。ちょうど若宮さんが建て替えを計画していらつしゃつたので、少しご寄付をさせていただいたら、宮司様にとても喜んでいただきました。芙蓉先生も恵美賀さんも枚岡神社とご縁があったのですね。

応神天皇の御霊がお出ましになる

芙蓉…今日は勝仁さんにお越しいただきましたが、実は昨日令和3年4月1日に、すごいことが起こったのです。全然雲のない青空に、あつという間に龍体の雲が来てぐるっと太陽の周りを巻いたんですよ。そして金色の玉がパッパッとたくさん現れ、その後コバルトブルーの光の玉がパッパッとたくさん現れました。これはいったい何だろうと思っていいたら、応神天皇の御霊がお出ましになって、「今日からいよいよ働く」と仰られたんです。それを見て聞いたときに、日本を守るために、私もいよいよ前に出て働かないといけないなと覚悟を決めたところです。



籠神社に伝わる掛け軸

勝仁…それはすごいことですね。応神天皇は第十五代天皇でしたか？ 僕はあまり応神天皇に詳しくないのですが……。

中山…第十五代応神天皇は八幡神^{はちまんのかみ}として神格化されていらつしやいます。尾張^{おわり}の祖の口伝をずっと伝えていらつしやる方が名古屋にいらして、その方からお聞きしたのですが、第十五代応神天皇は人間ということです。その方は、応神天皇は誉田別尊^{ほむたわけのみこと}だとおっしゃるのです。誉田別尊は、ホツマツタエにも出てきます。愛知^{あいち}の本家の筋ではなかった誉田別尊が、応神を名乗り、応神天皇とられました。

八幡神とは、1万6000年前に宇宙から御中（中

軸の裏には、籠神社の印鑑も捺^おされているんです。何

代か前の宮司様が、自分の所蔵の掛け軸を、下^{くだ}が国^{くに}之^の常^{とこ}立^{たち}

心^{こころ}）の日本の黄泉^{きみ}という心の場所に降臨した創造神だそうです。八幡神は、黄神^{おうじん}八大竜王^{はちだいりゅうおう}となり、まず最初に高天原^{たかまのはら}を造り、天津神^{あまつかみ}を産み、龍と共に豊かな国造りをすることを子に教え、龍を育て人と共に木を植え雨を降らせ豊かな大地を造っていきました。

八幡神応神が尾張の祖となる方で、一番元の始まりで、応神とは、もともと天之御中主神^{あめのみなかぬしのかみ}の意味だということをその方がおっしゃられていました。口伝では、令和の世に真の八幡神がお出ましになることが、伝えられてきたそうです。

勝仁…応神とは天之御中主神とイコールだったのでね。

籠神社から託された掛け軸

中山…そうですね。ちょうどここに掛けてある掛け軸^{あまのはしだて}は天橋立の籠神社で伝わってきたもので、先代の宮司様が芙蓉先生に託されたものですが、天之御中主神様を表しているそうです。籠神社の宝物殿の写真集の最後のページには、この掛け軸が載っています。掛け

日本建て替えへの祈り



左から小林芙蓉さん、中山恵美賀さん（にんげんクラブ愛知支部）、
船井勝仁

軸の裏には、籠神社の印鑑も捺おされているんです。何代か前の宮司様が、自分の所に伝わる口伝を描かれた掛け軸なのだそうです。

絵の説明をしますと、真ん中が豊受大神様、上が天照大御神様、上の右側が伊弉諾様、上の左側が伊邪那美様、下の右側が素戔鳴尊で、下の左側の劔つるぎを抱

えていらつしやるのが倭比売命様で、下が国之常立神様、全体で天之御中主神様ということになります。

神様とは、いろいろな形にお姿を変えられます。たとえば太陽の光が山に当たったら大山津見神で、川に光が当たると弁財天と、いろいろな形に姿を変えるわけですが、それで一つの総称は太陽ですから、それと同じようにこの掛け軸もいろいろと形が変わると思うんです。

この掛け軸が芙蓉先生のもとに届いたときに、私は神聖幾何学のワークに出ていたので、私にはこの掛け軸自体が、六角形を中心にした神聖幾何学に見えんですよ。だから伊勢いせに行くとき、天照大御神様が前にいらつしやるのか、時と場によって、配置が替わられるのかなと感じますね。

未成仏霊を治めることで国を浄化する

勝仁…これだけ大切な掛け軸が芙蓉先生の元に託されたということは、芙蓉先生には日本にとって特別なお

役割があるのでしょね。

芙蓉…書の世界に入ってから60年、普通の主婦でありながら、書画家として最初は書道教室から始めて、現在は国内外の神社仏閣に書画を奉納させていただいたり、展覧会などに作品を出させていただいています。日中韓をはじめとして、世界平和と国際親善のために各国で揮毫を行っています。

私は小さい頃に池に落ちて生死の境をさまよってから、人の内面や病気の有無などある種のエネルギーの流れが見えるようになりました。人の心の力が他人に影響を及ぼし、宇宙に存在するなんらかのエネルギーが、人の病を癒したり、土地を鎮めたりすることができることを知り、私自身もそうしたエネルギーを中継するようになりました。

その後もさまざまな出会いを頂いたことがきっかけとなって、得度してひとりの仏教徒、芙蓉光蓮となり、日々仏道に励んでおります。20年以上も、一日に般若心経百卷、光明真言千卷、舍利礼文千卷を最低唱えています。また、仙人から霊体の治め方を長い間習

ってきた霊能者でもあります。

そんな私が一步外に出ると、そこは霊体天国です。この世は不成仏霊に満ちているんですね。残念ながら、この世に生きる99・99999%の人は、なんらかの霊がついています。それも、一体、二体、ではなく、何千、何百もの霊です。

勝仁…僕らにもこうしていても、たくさん霊がついているんですね。

芙蓉…少なくとも私が今まで見てきた中で、どんな高名な霊能者や神職、仙人であっても、霊体がゼロという人は見たことがありません。しかも年々、霊の数も悪質さも増加の一途をたどっていると感じます。この国の不成仏霊や迷える霊を治めることが今一番大切なことだと私は思います。それが、この国の浄化へと繋がると思うのです。

私には50人の「芙蓉会」の生徒がいます。45年前から、書道教室で多くの生徒たちを指導してきて、それが芙蓉会の前身です。現在では芙蓉会としては存在しておらず、教室は行っていません。当時の生徒たちの一部

は、後援会を

カルマを解消するために何度も集まっています。

日本建て替えへの祈り



小林芙蓉 ギャラリー 流水堂
〒563-0131
大阪府豊能郡能勢町野間大原218
ご予約は、こちらにお願いいたします。
TEL.FAX 072-737-1080
11:00~15:00

は、後援会を作って国内外での親善や被災地の支援活動など、さまざまな形でサポートしてくれています。

またこの会は、本当はたいへん大きな

カルマを解消するために何度も集まっている「チーム」でもあります。

芙蓉会のメンバーは、50家族限定です。なぜ50人ではなく、50家族なのかというと、世界平和の最小単位である「家族」が一体となつて、体験したエネルギーや現象を通じて、命の大切さや祈りの大切さを広めるためです。その前段階として、皆さんのカルマを修正するために書道教室では「書は人なり」として前世からの思いグセや我をなくすべく、人格形成をテーマに指導してきました。

今でこそ光が入るようになりましたが、最初に書を教えようと教室に入ったときには、あまりに多くの未成仏霊や念で室内が真っ黒な雲におおわれ、講義ができない状態でした。時に首は絞められ、目は見え、何度倒れたことかわかりません。救急車で運ばれたこともあります。病院で検査しても病名はわからず、心筋梗塞状態となつて、授業どころではありませんでした。こんなことが何度かあり死にかけたときに、ある仙人に出会って助けていただいたのです。その仙

えています。また、仙人から霊体の治め方を長い間習

らず、教室は行っていない。当時の生徒からの一

人が言うには、芙蓉会のメンバーは世の中の浮かばれない霊体に一番憑依ひょういされ、ノイローゼとがん家系を持った50家族だということでした。そしてこの方々を教導くことが、私自身の修行であるというのです。私は24時間未成仏霊に苦しめられて、許してはその方々を愛し、許しては愛しの繰り返しでした。カルマを引き受け、時には家族を犠牲にし、財を投げうって、身を削ってボロボロになりました。

勝仁…そこまでしても、芙蓉会の皆さんを導かれるのですね。

芙蓉…芙蓉会のメンバーは、私にとっては子どものようなものです。本人たちもつらいので、なんとかしてあげたいのです。私には彼女たちの因果が見えていました。あまりのつらさに耐えかねて因果から逃げてどんどん間違った道へ行こうとする彼女たちを目の当たりにして、どうして捨て置くことができるでしょうか。あるときは、多忙が重なって体を壊して、救急車で運ばれているときに、あまりの辛さに体だけでなく心も悲鳴を上げ、「神様は本当にいらっしゃるのですか。」

私はなぜ、まだ生かされているのですか」と何度も神様に問いかけました。もうだめなのかな、死ぬしかないのかな、とぼんやり思いながら病院から出たとき、月がきれいに空に浮かんできました。白雪のようなまっ白な気持ちになって、「何もない」と、心の底からそう感じたとき、天地が感応したのです。それ以来、不思議なことに宇宙のエネルギーを自在に使うことができるようになりました。

それまでは書道教室の先生と主婦という二足のわらじを履いていましたが、それ以降、このエネルギーを入れて書画を制作し、公のために親善活動を始めるとになりました。結局は、私自身が問いかけられていたのです。「どこまで神を信じられるのか」と。

勝仁…すごいお話ですね。芙蓉先生の生きる覚悟が伝わってきます。だから先生の書はあれだけのエネルギーを発しているのですね。

平清盛公と十種神宝

たいらのきよもり

とくさのかんだから

芙蓉…昨日応神天皇の御霊がいらっしゃってから、じつは昨晚もずつと心臓がうずいたのです。その痛みは、

来ていることですから。彼女は本当にいい子なんです。私は彼女の光る部分を見て、

日本建て替えへの祈り

も悲鳴を上げ、「神様は本当にいらっしゃるのですか。

芙蓉…昨日応神天皇の御霊がいらっしゃってから、じつは昨晚もずっと心臓がうずいたのです。その痛みは、彼女（芙蓉会会員の方）からの念だったので、昨晚彼女に電話したんですよ。「自分も辛いけれど、あなたも辛いやろうな、念を送る人のほうが辛いね」と言ったら彼女は泣き出して、正直に念を飛ばしていたことを言われたんです。少し話をしたら、とたんに痛みがとれて、ちゃんと歩けるようになりました。今こうして普通にしているのは、エネルギーが高まったおかげです。そうじゃなかったら、ここまでたどり着けなかったと思います。

勝仁…芙蓉先生に念を出しておられたのですか？

芙蓉会会員（以下…会員）…どうしても先生に対して念が出てしまうんです。以前に厳島神社で先生が揮毫されたときも、近くにいて私「失敗しろ」って念を出してしまったんですよ。

芙蓉…そうそう。それを正直に言うので、私は彼女に電話しない日はないですよ。敵対するというのも、自分のコントロールではない、意識を超えたところから

来ていることです。彼女は本当にいい子なんです。私は彼女の光る部分を見ているから、我慢できたんです。会員…しかし我慢にも限度があるので、申し訳ない思いです。

私は源頼朝と縁の深い御霊らしいのですが、芙蓉先生は平清盛公の御霊なのです。清盛公は驕り高ぶったダークヒーローのような印象があるかもしれませんが、それは頼朝が清盛公の姿を歴史で捏造したからであって、本当の清盛公はとても優しいお人柄です。冬に寒かったら家来にも自分の着物の裾で寝させてあげて、早く起きたら起こさないようにそっと出ていらっしゃるくらいのお方なんです。人からは声を掛けられないほどのご身分が高いお方でした。

最初に私が芙蓉先生に念を飛ばしてしまっていたときには、私の家の子ども部屋を出かける前にふっと覗いたら勉強机の脚が焦げてしまっていて、あわや大火事になるところだったのです。そんなときに、芙蓉先生から毎日お電話を頂きました。「あなた、命の交信があるんだけれど」と。というのも、私が念を

送るたびに、芙蓉先生は心筋梗塞を起こされ、苦しまれます。声が出ないほど苦しい状況の中、「あなたは大丈夫？」と電話をくださるのです。芙蓉先生は日本を救うお方ですから、神々が守っておられます。そんなお方を私は殺そうとしていたのですから、実際には私のほうが神から命を取られてしまいます。芙蓉先生は、私の命が切られようとしていることがわかっていらしたので、必死に私を助けようとして毎日お電話をしてくださったんです。

私にはどうしても先生に執着があるんです。執着というのは、芙蓉先生のこと大好きなのに、この人をやっつけようという意識がなぜだかすぐあるんですね。その思いを止められないのです。24時間私の念で先生は苦しめられているときに、「あなたの念は一生引き受けた。どんどん送りなさい。あなたはいいの。あなたは頑張るだけ頑張った。私はあなたもあなたの家族も命ある限り守り切る」とおっしゃられたんです。そう電話越しにおっしゃられたときに、私は大きな光の玉を見ました。こういうすごいお方に対して、私は

ライバル心を持って敵対していたとは、なんてことをしていたのだろうか。と、そういう気持ちに気がまきたら、頼朝の御霊の記憶を感じたのです。あのときは父も亡き後、清盛公が命を助けてくれて衣食住を与えてくれました。父は武士の世界で殺され、敵の息子ですから殺されてもおかしくなかったのに、それを救ってもらったのに、頼朝は素直じゃなかったんです。親の仇^{あだ}と言って、あんなに優しくした清盛公に父として慕って一緒にお手伝いをしますとなぜ素直に言えなかったのだろうか、そのことを後悔して、今生こそはきちんとお仕えしようと思ったのです。そうしたらそれから、多くの方から「顔が変わった」とたくさん言われるようになりました。

中山…本当に顔が変わりましたよね。顔の雰囲気から何から何まで180度変わったと思います。先日はお会いしても誰だかわからなかったくらいで、声を聞いてようやくわかりました。

芙蓉…私は清盛公の御霊だと多くの方から言われるんです。私が住んでいる所は、清盛公の生家の跡地です。

そのちよつと行った所に清盛公を祀^{まつ}る神社もあります

があつた御霊ばかりだとおっしゃられました。それか

日本建て替えへの祈り

の玉を見ました。こういうすごいお方に対して、私は

です。私が住んでいる所は、清盛公の生家の跡地で

そのちよつと行った所に清盛公を祀る神社もありました。清盛公の御霊だと私自身が自覚したわけではなく、そう言われても恐れ多いのですが、知らない、わからないと言うたびに、いろいろな方がここにいらつ

があつた御霊ばかりだとおっしゃられました。それから、沖縄の宮古島の石庭を造っておられた新城定吉さんが「あなたは清盛公で、剣を持っているから剣の呪文を教えてほしい」とおっしゃったことがあります。

しやつて、そういうことを仰るのです。

私はそんなこと言われてもそんな呪文は知りません、と答えましたが。その剣があれば世界も思うままだとおっしゃられました。

会員…あるときは、小林芙蓉のことを全く知らない福岡の霊能者の方が、「京都の嵐山あらしやまに小林〇〇という女性がいらっしゃる。その方は清盛公の御霊である」とおっしゃったんです。小林芙蓉とおっしゃられたのなら、そのようにおっしゃる霊能者の方は何人もおられるのでわかるのですが、小林〇〇と誰にも伝えていない先生の本名をおっしゃられて、それにはびっくりしました。

勝仁…そういうえば、あるワークショップを受けたとき

に、ある女性とセッションをしてその方の過去生が見えたことがあつたんですよ。で、その方は黒魔術師のアグリッパだつたと思つたから、それを伝えたらその女性は「バレたか」と言つて喜んでご飯をごちそうしていただいたことがあるんです。そのアグリッパから

芙蓉…その前にも、ある霊能者の方がいらしたことがあつて、その方は私の顔を見るなり「清盛公！ 憎らしい!!!」と言つて飛び掛かってきたこともあるんですよ（笑）。また、霊体の治め方を勉強させていただいた仙人からも「あなたは清盛公だ」と、そして私の芙蓉会に入っている生徒の方たちは、みんなその頃に縁

教えてもらったことは、十種神宝とカバラを使いこなせたら世界を征服できるよ、というのです。それから十種神宝の研究をしているのですが、どうも十種神宝を日本の歴史上で最初に使いこなしたのは、清盛公だろうなあとと思うんです。たぶん清盛公はその後頼朝ではなく義経よしつねにそれを託したので、南朝の後醍醐天皇

かその子孫がそれを受け継いだのではないかと考えています。そんなことを考えていたので、今日は清盛公のお話が出てきてちよつとびっくりしています。十種神宝を全部使いこなせた人はまだいないそうで、全部を使うと地球が壊れてしまうくらい強烈な力があるそうです。

応神天皇、聖徳太子、空海の祈り

芙蓉…それは面白い話ですね。

応神天皇の御霊も昨日お出ましになられましたし、最近では聖徳太子と空海も盛んに出てくるんです。彼らの日本に対する祈りを感じます。一つ一つの点が、線になってきたように感じています。4月1日から新たな動きが始まって、日本の建て替えが始まったところなのでしよう。

勝仁…私は大阪と京都とは、聖徳太子と弘法大師空海のエネルギーがぶつかっているような気がするんですよ。聖徳太子のエネルギーが大阪で、弘法大師のエネ

ルギーが京都だと感じるのですが、京都のほうがるかにいいエネルギーだから、大阪人の私としては京都にはなぜかとてもかなわないというコンプレックスを持っています。

芙蓉…なるほどそういうふうに感じingのですね。私は空海は聖徳太子の御霊の生まれ変わりだと思います。

大阪の南河内^{みなみかわち}に叡福寺^{えいふくじ}というお寺がありまして、聖徳太子のお墓があるんです。また、大阪の羽曳野市^{はびきの}の応神天皇陵に石器や土器のようなものが出てくるのが聖徳太子のものもいろいろ同じようなものが出てきているんです。それでこれは何か深い関係があるなという気がしています。いろいろと調べたら謎が解け始めて、その謎の流れは空海に行くんです。空海、聖徳太子、応神天皇、とこの流れの共通点は、仏教を広め日本を築き守ってきたということです。応神天皇は博士王仁^{わに}から千字文^{せんじもん}や論語を習いました。応神天皇の時代にある程度仏教は来っていて、王仁がそれを立証したと思うんですね。論語にも千字文にもそういう思想が入っています。

勝仁…どうも僕は聖徳太子のことがとても気になるん

ていることには意味があると思うのです。今はまだ、

日本建て替えへの祈り

のエネルギーがぶつかっているような気がするんですよ。聖徳太子のエネルギーが大阪で、弘法大師のエネルギーが入っています。

勝仁…どうも僕は聖徳太子のことがとても気になるんですよね。

芙蓉…そうでしょう。勝仁さんは聖徳太子とご縁が深いと思いますよ。聖徳太子とご縁が深い私の知っている政治家の方がおられます。ぜひこの方と会われて、メキキの会の出口光さんと三人で、日本を建て直してほしいと願っています。

今、日本中でも世界中でも異常気象が起こり、地震や火山が活発化しています。それらはすべて、人間の心が持つ波動がどんどん荒れてきている影響をそのまま反映していると思うのですね。さらに新型コロナウイルスの蔓延です。こうして毎日過ごしていると、「祈り」の圧倒的な少なさに、危機感を覚えます。あちこちで我の強い方たちの喧嘩が起き、土地がどんどん荒廃していくさまが感じられます。

そういったときに、過去には聖人が祈り、天変地異を回避してきたのですが、現代は昔に比べて圧倒的に祈りの総量が足りないのです。一人の聖人の力では止められません。今、病が流行し、天変地異が起こっ

ていることには意味があると思うのです。今はまだ、人間の心はどうしても自分さえよければ、我先に、という意識が多いものです。自粛と言っても、土、日には驚くほど繁華街は人で溢れていますよね。ですが、この流れが止まって、どんでん返しになる時期がきっと来ます。必ず落ち着きますから、それぞれの人が、感謝の気持ちを持って、調和し、平和な気持ちで過ごしてほしいと願っています。人の心は、間違いなくその土地に影響を与えます。一人一人の祈りがエネルギーとなり、実際に日本を動かしています。自分の小さな行動や、一瞬の心の動きが日本という国の今後を左右することを経心にとめておいてほしいと願っています。

今日は勝仁さんにお越しいただいてとても特別な日になりました。楽しい時間というのはあつという間に過ぎますね。またぜひ、元氣にお会いできる日を楽しみにしております。

勝仁…今日はパワフルな女性に囲まれて、すごい場面でいただけだなと思っています。とても勉強になりました。ありがとうございました。

光の書『響』



6月18日 流水堂にて揮毫



●小林芙蓉(こばやしふよう)

書画家。一九七六年から活動を始め、アジアを中心にアメリカ、イスラエルなど世界各地で書を通じて国際親善に尽力し、ローマ法王にも書を献上。国内では伊勢神宮や高野山金剛峯寺など全国の神社仏閣で揮毫・奉納している。著書に「水のように生きる」「水鏡」など。また、京都・嵐山にて豆腐懷石料理店「松籟庵」を経営。故船井幸雄氏とは、京都屈指の「イヤシロチ」として松籟庵を訪れたことをきっかけに親交を深め、DVDや雑誌などで対談するなど晩年まで交流は続いた。

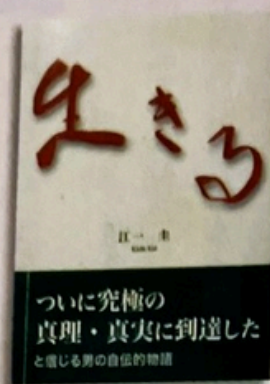
松籟庵 〒616-8386

京都府京都市右京区嵯峨亀ノ尾町官有地内
お問い合わせ先 075-861-0123

第7回 本『生きる』のメッセージ

先日、人間学を専門とする哲学者の教授から『生きる』をお読みになられて、「感動した! 心が洗われた! 著者が何事にも誠実であり、素直であり、そしてピュアであるから、全宗教を超えた究極の真理・真実に到達し得たのでしよう」という感想を頂きました。

誰もがみんなキラリとダイヤモンドのように光る素晴らしい魂を持っています。ただ、カルマとも言われる、負の心に覆われてしまつて、せつかくの光り輝く魂が表に出てこれない状態となつておりますと、人生が苦しく感じられます。苦しみの原因となつている自分の負の心を内観し、深く反省懺悔し、自分の愚かさ、ちっぽけさに気が付いたとき、そのような自分を生かしていただけておりますことに感謝があふれ、大いなるものの愛に気づきます。『生きる』には、ここまでもさらけ出すのかというほどの、反省懺悔が書かれています。自己弁護せず、自己保存で言い訳せず、正直に自分を吐露し反省は、勇氣と誠がなければなかなかできません。神様は、はちゃめちゃんな人が大好きです。それが人間です。神様は、人間の愚かさも愛してくださっていますので、神様の前ではいいかつこうしたり、いい子であろうとする必要はありません。いくら表面で繕つても神様は、すべてお見通しです。自分を繕っている、神様に嘘をついている、計算しているような姿よりも、無茶苦茶でもいい、正直に必死に自分のカルマに向き合っている姿こそが、神仏に通じる生き方であります。



※『生きる』という本の表紙の題字を書かせていただきましたものです。

こちらの本は私の息子が、多くの人たちへ生きる勇氣を与える本になれば、という思いで、壮絶な人生を生き抜いてきたことを赤裸々に書き綴った本になっております。そして、壮絶な体験を通して、今のこの世の中に必要なメッセージを上から書かされた本でもあります。